

令和2年度 第1回萩市地域公共交通会議 議事要旨

日 時：令和2年8月31日（月）14：30～15：40

場 所：萩市総合福祉センター 多目的ホール

1. 開会

【事務局】

ただ今より、令和2年度第1回萩市地域公共交通会議を開催する。

委員26名のうち、代理出席も含め21名の委員に出席していただき、会議の成立要件を満たしていることを報告する。

また、会議は公開とし、議事録等についてもHP等で公開とさせていただくので、ご了承をお願いします。

本日は、新たな任期後、初めての会議となるため、出席の皆様の紹介を行う。

委員は、資料の委員名簿のとおりである。

設置要綱第4条第1項に「交通会議に会長を置き、萩市長又はその指名する者をもって充てる」と規定されていることから、市長の指名により、萩市商工政策部の山本徹部長を会長に選任する。

開会にあたり、会長から挨拶をお願いします。

2. 会長あいさつ

【会長】

本日は、ご多忙のところ、皆様方にはご出席いただき御礼申し上げます。

また、皆様方には、萩市地域公共交通会議の委員として、本日から令和4年8月末までを任期としてお願いをさせていただいたところ、ご理解を賜り、重ねて御礼申し上げます。

今年の3月頃から新型コロナウイルス感染症が日本でも広がり、今なお新規感染者が毎日、日本各地で確認されている状況の中、幸い萩市では感染者が確認されていないが、県内では150人を超える感染が確認されており、感染対策をしっかりと講じながら、日常生活や社会経済活動を展開することが求められている状況にある。

そうした中、新型コロナウイルス感染症の影響は、萩市において観光関連産業をはじめ、様々な分野で受けており、移動自粛などから公共交通の利用についても大きく減少しているところである。

さて、萩市は、昨年12月に本会議の委員の皆様には様々なご意見をいただき、地域公

公共交通網形成計画「萩市交通ネットワーク計画」を策定し、目指す将来像「市民の暮らしを支える利用しやすい交通ネットワーク」の形成に向け、今年度から計画に位置付けられた施策を推進することとしている。

とりわけ、萩市は、高齢化が進んでいること、また交通事業者による公共交通が行き渡らない中山間地域を多く抱えていることなど、高齢者等の移動手段の確保が大きな課題となっている。

そうしたことから、高齢者の方が、より利用しやすいよう、萩市内発着の路線バスについて、100円で乗車いただく「ハギカ」を70歳以上の市民の方にお配りして、ご利用いただいている。離島の70歳以上の方は、航路運賃の片道分を無料としている。また、高齢者の方の自宅から目的地までの移動手段をどう確保するか、地域の支え合いを含めた福祉の施策と連携した取り組みが必要となっている。

こうしたことを踏まえて、今後の交通施策を推進することが必要であることから、後ほどご紹介する、過疎地域の高齢者の社会参加活動など、高齢者福祉に関連する調査研究をされている、九州大学の高野教授に今年度から本会議の委員をお願いしている。本日は、令和2年度、皆様方にあらかじめ委員をお願いし、萩市地域公共交通会議の第1回目である。公共交通網形成計画に係る事業推進、また、まっ—るバス運行の見直しに向けた調査事業の実施について、ご説明申し上げるので、忌憚のないご意見をいただければと思う。よろしくお願いいたします。

それでは、会議を進行する。

先ず、この会議の副会長の選任について、副会長は、設置要綱第4条第2項に「交通会議に副会長を置き、委員の内から会長が指名する」とあるので、私から指名させていただきます。

昨年度まで、山口大学の榊原教授を委員として参画いただき、副会長をお願いしていたが、委員の任期満了とともに、退任の申し出があった。

このため、先程の挨拶で触れたとおり、この度から高野教授を当会議の委員として迎え、あわせて副会長をお願いしたいと考えているが、いかがか。

—全員賛同—

それでは、高野委員に副会長をお願いする。

高野委員から挨拶をいただきたい。

【副会長 高野委員】

あらためて、高野です。

現在、九州大学に在籍しているが、1995年には山口女子大に在籍し、2009年まで山口県立大学に在籍していた。

1997年に現地の聞き取りで、現萩市の田万川地域に行ったことがある。

人の暮らしに係る行動範囲と行政の区域がズレて暮らし難くなるのでは、という思いがあった。例えば、田万川地域であれば隣接する益田市。これは、県境を跨ぐので、色々なサービスに障害がある。しかし、地域の方々は日赤病院や商業施設に行かれる。このようなことが気になっており、田万川地域で勉強させていただいた。

その後、過疎化が進み、市町村合併が進み、大きく変化していった。そのような中、公共交通が持つ役割は改めて重要であることを感じた。

この度、萩市の公共交通の会議に加えていただけることから、自分自身も勉強し、議論していきたいと思っている。よろしく願います。

3. 議事

【会長】

本日の議事は2件とその他の項目である。

議事（1）の説明をお願いします。

議事（1）萩市地域公共交通網形成計画に係る事業推進について

【事務局】

資料1、資料2に基づき説明。

萩市地域公共交通網形成計画に係る事業推進については、昨年度中に本会議で承認をいただいているが、新たに就任された委員もおられるので、現在の事業の進捗状況について、あらためて報告する内容である。

【会長】

ただいま、事務局から議事（1）について説明があったが、意見や質問があればお願いします。

【川上地域住民代表 横山委員】

本年4月から実施されている高齢者移動支援助成事業の100円バスは、どのように決まったか。市議会の方でも承認されたのか。

地域の方の意見を聞いたところ、萩地域内の方は、萩地域内に病院や商業施設、まあるバスがある上に、山口市まで往復200円の負担で済む。また、例えば、居住地域から阿武町の道の駅まで往復200円で済む。

旧町村の場合、萩地域への通院等で、利用する路線バスの往復負担が200円掛かる。この負担の差が、どうかと思う。

それから、この事業により、通常料金との差額をバス会社へ補填されると思うが、どのような手法で補助されるのか。

【事務局】

高齢者移動支援助成事業については、本年度からの事業であり、市議会の令和2年度予算審査で議論も行った上で、承認を受けている。

なお、当事業は、高齢者の移動支援の観点で福祉施策として実施している事業。

また、中心部と地域における負担の件については、地域から市の中心部へ路線バスで移動する場合、負担が大きいという意見を多くいただいていたため、高齢者の移動支援として1乗車100円という支援の観点で行っているもの。

それから、当該事業によるバス会社への補助については、ひとり一人の乗車状況を確認することは不可能であるため、各バス事業者で乗り込み調査を行い、調査で得た人数を基に必要額を試算し、これを補助する仕組み。

【会長】

付け加えになるが、高齢者移動支援助成事業については、高齢者の移動を、しっかり支援していこうということが大きな意味であることから、萩地域の高齢者の方も支援対象としている。是非、ご理解いただきたい。

【むつみ地域住民代表 大田委員】

高齢者移動支援助成事業は、高齢者の移動が増加すれば、運行会社にとっても良いことであり、高齢者も助かると思う。

ただ、バス停までの移動が課題であり、ここを考えていただきたいと思う。

【事務局】

バス停までの移動等、地域内の移動支援として、地域主体の交通も進めていくように考えている。

また、地域においては、ぐるっとバスを運行しているが、これの改善も進めていければと考えている。その際には、ご協力いただきたい。

【山口県バス協会 藤原委員】

高齢者移動支援助成事業の利用状況が分かれば教えていただきたい。

【事務局】

防長交通株式会社から8月28日の当事業対象者の利用状況を資料としていただいております。この資料では、萩管内の全体利用は214人。一番多い利用が萩商工高校～阿武町奈古駅前の路線バスの利用が74人。一般乗合の全体の利用が179人。

先程、ご質問された横山委員さんの川上地域を運行する、みなし4路線の全体の利用が35人。

【中国ジェイアールバス株式会社 河内委員】

当社は7月17日に乗り込み調査を実施した際の利用者数は36人。このうち、山口市まで移動された方が34人で、市内移動の利用者は2人。

【防長交通株式会社 斎田委員】

私自身も萩商工高校～阿武町奈古駅前の路線バスに乗ったところ、明らかに今までより利用者数は増加している状況。

また、利用者によっては、試しに津和野行の路線バスに乗られるという方も出てきている。

基本的には、地元の方が買物で出てこられるのに利用されている状況。

ただ、このようなコロナ渦の状況下なため、利用も抑えられていたと思うが、徐々に増加傾向と思う。

コロナの状況下においても1日約200人の利用なので、本来なら、まだ利用は多いと見込まれる。

高齢者の方は外出されることで、元気で長生きができるとも言われているので、この事業を行われて良かったという感触。

【石見交通株式会社 渡辺委員】

当社も乗り込み調査を行っているが、数値の確認が未だ出来ていない。

乗務員からの状況の聞き取りでは、非常に利用が多く、主に益田日赤への利用が多い様子と聞いている。

【会長】

ただいま、各バス会社から報告されたが、移動に関する負担の面から、外出しにくかった方も、しっかりと利用されている状況。

その他、当議事に意見がないようであれば、次の議題に移る。

議事（2）の説明をお願いします。

議事（2）まぁーるバス運行の見直しに向けた調査事業の実施について

【事務局】

資料3、資料4に基づき説明。

【会長】

ただいま、事務局から議事（2）について説明があったが、意見や質問があればお願いします。

【福栄地域住民代表 波多野委員】

実証ルート案を検討するメンバーは具体的に、どの様な方々か。

【事務局】

まず、この秋頃から、当事業を行う事業者を選定し、事業者の方で乗り込み調査等を行い、この調査結果を踏まえて実証ルート案を作成する予定。

この実証ルート案を交通会議で協議、また、実証ルートを運行する際に必要となる道路管理者等の関係機関との協議等を調整して進めていく。

【福栄地域住民代表 波多野委員】

実証ルート案は、商工振興課が主な舵取りで作成されるようだが、地域の実状が、それぞれ違うので、総合事務所や地区社協等、地域住民に接する機会が多い方も含めていただいた方が良いと思う。

【事務局】

この事業の対象は、まぁーるバスではあるが、現在の運行区域外への延伸の協議においては、波多野委員が意見されたような地域の方の参画も必要とも考えられる。なお、今後、旧町村で運行している、ぐるっとバスを考えていく上では、波多野委員が意見されたように、地域住民に接する機会が多い地区社協の方等と一緒に話をしていきたいと考えている。

【山口県バス協会 藤原委員】

先程、事業の説明で、まあーるバスの東回りを考察されて、運行ルートの見直しの検討ということも含まれていると思うが、路線図を見ると、東回り・西回りが結節する点があると思う。この結節点の乗り継ぎを上手く活用できれば良いのではないかと思う。

また、この乗り継ぎが何故活用できないのか、という視点でも考える必要があるのではないかと思う。

それと、東回りと西回りを循環している地区の人口分布についても確認して、東と西の違いを見るところといった視点も含めて調査の対象に加えて、より良い調査結果が得られるようになればと思う。

【事務局】

調査にあたっては、利用されている方のみでなく、現在、利用されていない方等、なるべく広く意見を集められる考えも含めて進めていきたい。

【防長交通株式会社 斎田委員】

現在、当社が、まあーるバスを運行しているが、ルートに関しては、良くできたルートと思っている。

1周を1時間で周る設計と、1周で西・東に乗り換えが出来る。

ただ、運行時間に余裕がないルートでもあり、高齢者等の乗降に時間が掛かる方が多く乗られた場合は、1時間の運行で間に合わない場合もある。この場合、乗り継ぎ利用者のことを考えると、次の便も待つ必要がある。

このため、運行ルートの見直しにあたって、停留所を追加したり、ルートの延伸となれば、今の運行時間では厳しいと考えている。

それから、萩市には観光客もおられるため、現在の運行ルートの道の駅一まーとから、萩反射炉まで延伸させた方が良いのか、という考えもある。ただし、この場合、先程お話したとおり、1周1時間では難しいこととなる。

いずれにしろ、現在の東回りと西回りの結節点は必要であり、観光客を取り込める運行ルートが可能であれば、運行に係る市の費用負担も軽減されるのでは、と思う。

【事務局】

現在、運行にあたられている運転士の方の意見もあると思うので、また、ヒヤリングを行うことも考えたい。

また、結節点や運行時間、観光客の取り込みも含めて考えていきたいが、お話されたとおり、1周1時間では、見直す範囲が限られることから、1時間の運行ルートに捉われずに考えていきたい。

また、防長交通株式会社の意見もお聞きしたいと思う。

【副会長】

この、まあーるバスは観光客の利用と地元住民の利用を支えているという話を先程からお聞きしているが、今回の見直しの方向性としては、生活路線の側面を見ながら、また、観光客のニーズという視点もあるので、生活・市民の方の要望と折り合

いを付けながら見直しを進めて行くのか。或いは、生活路線を重視して行く議論なのか。

その辺りの目指すべき方向が決まっているようであれば、教えていただきたい。

【事務局】

方向性というのは、正直、現時点では難しいところもあるが、市民の方からは、具体的な延伸要望もあり、やはり、市の移動手段の確保として、生活を重視する必要があると思っている。

まぁーるバスの経緯として、市民病院の移転に伴う移動手段とする運行にプラスして観光客の移動手段とした、2つの目的がある。

市民の声を活かしながら、観光客の声も、と考えているが、このコロナ渦の状況のため、観光客の声を聞くには難しいところがあり、先程、事業の説明でも話したとおり、事業の後ろ倒しということもある。

具体的に、どこまで延伸できるか、ここまでなら1時間30分は必要等、そういったことも含めて調査していきたいと考えている。

【会長】

まぁーるバスは市民の市街地の移動手段で、特に高齢化が進んでくると、その役割は大きい。

一方、萩市の観光地は点在しているため、それを効果的に結ぶという観点も必要。平成30年度利用調査では、観光利用が16%程度だが、今、観光ニーズを聞き取れる状況ではないことから、事業の後ろ倒しということ。加えて、市民利用も減少している。

いずれにしろ、まぁーるバスは市民の生活路線であることは間違いない。また、市中心部の市民の利用のみならず、離島の方も接続によって利用される。その他地域の方も、例えばJRとの接続によって利用される。

これに加え、観光も含めた市街地の公共交通という理解をお願いしたい。

【川上地域住民代表 横山委員】

どれぐらいの観光客が1台に乗車するのか分からないが、観光客が乗車された場合、運転士から乗り継ぎ等の案内をすることも出来れば、観光客の取り込み増に繋がるのでは、と思う。

【事務局】

現在の運行においても、運転士が乗客から目的地を聞かれたら、どの停留所が最寄りとなるかや、乗り継ぎ等の案内をされているが、それ以上のサービスとなれば、対応も容易ではないかもしれない。防長交通株式会社の方の協力も得ながら、観光利用が増えるように、どのようなことが出来るか考えていきたい。

【副会長】

以前、萩市の社会福祉協議会にお願いをして、学生を連れて、高齢者の方に聞き取り調査を行ったことがある。

高齢者の方にとって、まぁーるバスは存在感が大きい感触であった。

確かに、利用される方は乗られるが、地域にとって、このバスの存在があることで安心感に繋がっている。

乗られる方の意見は色々あるが、利用頻度が少ない方や今は利用しないけど今後は利用する、という方もおられて、そういった方の状況把握はどうか、という考えがある。つまり、よく使われる方は上手に使えていると思うので、使い方の良い事例の把握ということも必要ではないか。

今回、実施される調査は、乗られる方の人数の把握としての設計か。

【事務局】

調査事業については、単なる数字のカウントでなく、当然、乗車される方の意見も伺う考えであるが、今は利用されていない方のニーズも反映できればと考えている。上手な使い方については、本年度、総合時刻表の作成も計画していることから、そういった情報も活用できればと考えている。

【会長】

その他、意見がなければ、当議事については、議事内容のとおり、事業を進めていくことに対して、承認を伺いたい。

議事（２）について承認される方は挙手をお願いします。

ー全員挙手ー

【会長】

議事（２）は承認とする。

【会長】

その他の事項について、説明をお願いします。

（３）その他

- ・地域交通の検討プロセスに関するガイドラインについて
- ・コロナ対策「バスを安心してご利用いただくために」について

【事務局】

資料５、その他資料に基づき説明。

【会長】

ただいま、事務局から資料５で説明があったが、意見や質問があればお願いします。

【山口運輸支局 秋本委員】

当交通会議で地域の移動手段、自家用有償旅客運送の在り方を十分検討していただき、地域の状況を把握していくことが重要となるが、このガイドラインでなくてはならないということではない。

地元の方々や交通事業者と協議された上で、萩市にあった形で進められて良いが、

ガイドラインは、例えば、当会議で合意が難しい場合、そのような場合を想定して、
国交省で示したもの。

このため、合意形成が整うようであれば、このガイドラインによらなくてよい。
取り組みに当たっては、十分に議論していただきたい。

【会長】

その他、当議事に意見がないようであれば、次の事項に移る。
説明をお願いします。

【山口運輸支局 秋本委員】

その他資料に基づき説明。

【会長】

ただいま、山口運輸支局から説明があったが、意見や質問があればお願いします。
ないようであれば、本日の全体を通して意見や質問があればお願いします。

【福栄地域住民代表 波多野委員】

先程、むつみ地域住民代表の大田委員もお話されたが、山間部においては、バス停
までの移動手段の確保が難しい。

このため、先程の議論で、まあ一バスの見直しもあるが、地域のぐるっとバスも
体系の見直し、地域のニーズに沿った形に進めるべきだろうと考える。

ぐるっとバスは、どの様に考えられているか。

【事務局】

ぐるっとバスについては、実際に見直した地域においては、デマンド化により、利
用が伸びている実績もある。

見直しの進め方については、総合事務所と協議もしているところであるが、実際、
地域の利用者に接する機会が多い社協等も含めて、進めていければと思う。

また、委員においても、地域の意見を取りまとめる等、ご協力をお願いします。

【福栄地域住民代表 波多野委員】

総合事務所であれば、どこが主として窓口になるか。

地域交通であっても、福祉関係であれば市民窓口部門である。

【事務局】

ぐるっとバスについては地域振興部門。

【会長】

ぐるっとバスについては、定時定路線の方式やデマンドの方式、あるいは、その両
方の混合で、地域の実状によって、運行形態が異なっている。

例えば、地域内での奥地へデマンドで運行してしまうと、それで利用が限定される
こともあることから、そういった場合は、定時定路線にする等の方法も有り得る。

ただ、ニーズとしては、自宅から目的地であり、デマンドが必要であるとする。
進め方については、地域の中の地区社協や高齢者の支え合い協議会の中で、高齢者

の移動手段の確保は大きな課題になっていると思う。例えば、買物支援をどの様
に行っていくのか等。そういった議論の中で、ぐるっとバスも含めて、福祉の面から

見た高齢者支援を考えていけないかと思う。

ぐるっとバス、高齢者移動支援は、各部門でのそれぞれの所管であるが、総合事務所の課題として、また、交通政策としても福祉サイドとの連携も進めているので、そういった観点で、色々な場面で議論していただくことが重要と考える。

【川上地域住民代表 横山委員】

川上地区社協の世話人として従事しているが、コロナの関係で、支援車両の8人乗りのところ、座席の間隔を空けて、3~4人で利用するようにされている。

先程、運輸支局から、車内の換気等、十分な対応を講じておれば、間隔を空けず、通常利用されて良いと話があったが、当支援車両も同様に考えて良いか。

【山口運輸支局 秋本委員】

地域の福祉支援車両についても、協力し合って、マスクの着用や消毒の実施等、コロナ感染予防に努められれば安全性はあると思うが、所管の考えもある。

【萩市社会福祉協議会 山本委員】

市の高齢者支援課と協議する中で、リスクの高い高齢者が利用されることから、安全対策を万全に期す必要があるということで、暫くは間隔を空けての利用を続けていたきたいと考えている。

【会長】

その他、意見がなければ、本日の議事を終了する。

4. 閉会

【事務局】

以上で令和2年度第1回萩市地域公共交通会議を終了する。

以上